

わが国におけるサービス消費支出と異時点間代替弾力性

岡山商科大学 小塚 匡文

この論文では、わが国におけるサービス支出の特徴について、異時点間代替弾力性に着目した、共和分アプローチによる実証研究を展開した。推定式は非耐久消費財支出とサービス消費支出を考慮した CRRRA 型効用関数に基づくオイラー方程式である。サービス消費支出は、全消費支出の 5 割以上を占めるものであり、この消費動向の変化を検証することは、重要な貢献であると考えられる。推定の結果、1980 年代より 2000 年までのサービス支出については、その異時点間代替弾力性は有意でなかったが、90 年代以降をサンプル期間としたとき、有意に正であった。これは、90 年代に入って、消費されるサービスの質が変化し、一種の奢侈財となる「選択的サービス」が含まれるようになったことが背景にあると考えられる。